

社会教育が地域を元気にする

～平成24年度「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」実証的共同研究採択事業報告～

第10回 しのはら地域教育協議会

人を育てることは、共に育つこと ～三つの柱でつなぐ～

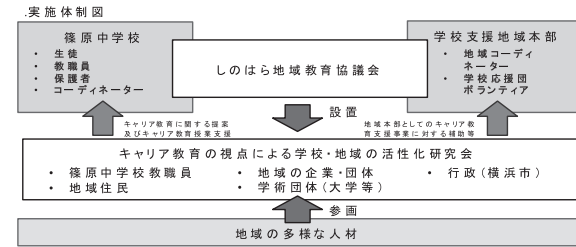
文部科学省では、平成22年度より地域の課題解決のための「仕組みづくり」を支援する「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」事業を実施しています。このページでは、24年度に実施した本プロジェクトの採択事業の報告を紹介します。以下のホームページもご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/project/1303673.htm(文部科学省HP)
http://manabi-mirai.mext.go.jp/other/project.html(学校と地域でつくる「学びの未来」HP)

1 本校の現状と課題
横浜市立篠原中学校では、地域との関わりを積極的に模索し、学校支援地域本部による支援も含め、様々な活動を展開してきました。一方、学校支援地域本部の方向性や、地域における学校の在り方や地域の中にある人材の発掘・育成については課題となっていました。

2 実証的共同研究の実施内容とその方法
事業の実施にあたっては、地域住民が主体的に参加し、地域活動を推進していく単位として、中学校区が最適と考えました。また、実証的共同研究の実施内容及び実施方法は、以下の通り内容を定め、実施するものとした。

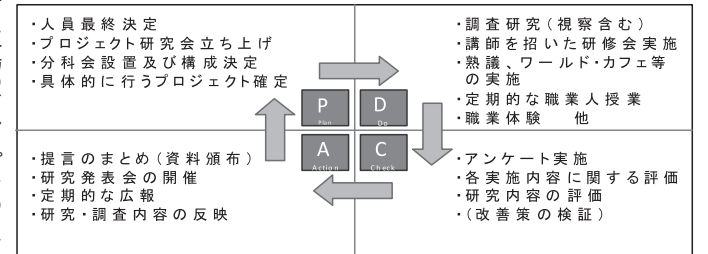
(1)三つの柱…人材育成・キャリア教育・IT
まず手始めに三つの柱を掲げ、それぞれの分野においての研究討議を始めるとともに、人材育成・キャリア教育の観点から、教職員・地域住民に対し講演会を開催し、人材育成に対する意識調査を実施しました。また、キャリア教育・ITの観点から、生徒対象に「職業」に対するアンケート調査を行いました。同じくして、「しのはら仙台プロジェクト」を立ち上



しのはら地域教育協議会

げ、被災地宮城県を訪れることで、人として育つためのプロジェクトを企画しました。

(2)キャリア・人材育成の観点から
①横浜マリノス株式会社 嘉悦朗氏による講演会「地域と共に」
②人材育成に関する意識調査実施
③企業・教育関係者・教職員・保護者・中学生・大学生・地域などの七つのカテゴリーに分けた同じ立場でのリアル熟議の開催
④学校家庭地域連携事業における120名の違う立場のグループでのリアル熟議の開催



嘉悦朗氏による講演会



リアル熟議におけるしのはら仙台プロジェクトの発表

(3)「しのはら仙台プロジェクト」

○事業の趣旨
キャリア教育の視点で、自ら何ができるか考え実践するために、被災地(仙台)を訪れ、本物に触れ、体験し、感じ、繋げる事で、子どもたちを取り巻く社会状況や地域での課題を確認し、今までの経験を生かしながらこれからの地域社会での生き方を考える継続的な学びとする。

○事業の内容

宮城県仙台市における3日間の研修
○実施時期
平成24年8月7日(火)～9日(木)

○参加対象
篠原中学校生徒、篠原中学校教職員(同行者はプロジェクト関係者)

○参加者
生徒12人、教職員6名、他同行者8名

1日目 七夕祭りを見学→仙台市立富沢中学校リーダー研修会に参加し、富沢中と意見交換など交流を深める

2日目 石巻市立大川小学校訪問→女川町にて地域の方にお話を伺い、学習支援団体など訪問する

3日目 仙台市立中野小学



荒浜小学校の屋上からの地域 高台から見た女川町 富沢中学校との交流

校・荒浜小学校を見学。教育委員会の先生にお話を伺う

○その後の生徒の活動
①目的・方法こそ異なりましたが、同じく8月に被災地を訪問した横須賀市立浦賀中学校のサッカー部と、お互いの活動の発表や話し合い、サッカーなどを通じた交流をしました。

②生徒会を中心としたあいさつ運動
③地域での「しのはら仙台プロジェクト」の発表など
↓地域での成果



(4) IT
篠原中学校のキャリア教育の一環としての「職場体験」の事前授業に活用できる「e-ラーニング」の開発を、職場体験施設「キッザニア東京」や職場体験を受け入れている施設「トレッサ横浜」のノウハウを学びながら、東京工科大学とともに推し進めました。

①地域への人材育成アンケート実施
②キッザニア東京での研修
③生徒へのアンケート、聞き取り調査を実施
④職場体験の事前授業における「e-ラーニング活用」
⑤しのはら学校支援地域本部HPへのアップ

3 実証的共同研究の成果と今後の課題
今回のプロジェクトの実施において、計画当初に考えられた三つの柱の研究課題は、それぞれの活動を一つにくくることはせず、お互いに相互を刺激し合い、

融合しながら、地域の教育力を高めるための大きな実践活動となりました。

○地域での成果
子どもたちは次のものを得、実践発表しています。
「当たり前の大切さ」「日頃からの備え」「つながりの大切さ」
①地域防災拠点校での発表
②近隣小学校でのPTA行事などでの地域・保護者向け発表
③近隣高校文化祭での展示ブース
④地域連携主催の祭事での発表
⑤港北区の防災関係者への発表



e-ラーニングの一部抜粋

○教職員・保護者の意識
地域における自分たちの活動や立ち位置を認識し、それぞれが学び合うこと・経験することの意義を見出だす。



職場体験の事前授業におけるe-ラーニング活用

○今後の課題
「人を育てることは、共に育つこと」を軸に活動を展開。

継続的活動と今後の展望は、それぞれの意識の置き方にあると考えられます。

個々に進めるべきものではなく、誰がいなくてもできないものでもない、普遍的な組織立てた活動を、より実践的に進めるべきと実感しました。

(しのはら地域教育協議会 会長 長島 由佳)